

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1. 建物概要

建物名称	(仮称)介護老人保健施設くわの実の郷	
建設地	新潟県新潟市東区空港西二丁目214番14, 15	
用途地域	準工業地域	
建物用途	病院,	
竣工年	2018年3月 竣工	
敷地面積	6,281.01 m ²	
建築面積	2,101.69 m ²	
延床面積	5,094.10 m ²	
階数	地上3F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2017年6月23日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{51.7}{42.7} = 1.2$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.0		バリアフリー計画	3.0
			維持管理	3.0
			設備の更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.7		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	2.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.5		建物外皮の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	3.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全と創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	5.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 長寿命化の取組み: 建物外周にバルコニーを設置し、外壁材の劣化を抑制している。
- 自然エネルギー利用の取組み: 開口部や外壁の高断熱化で外部の熱負荷を抑制し、省エネルギー化を図っている。
- 新潟のまちなみへの取組み: 車寄せやアプローチに屋根を設け、住宅地である周辺環境との調和を図った。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)介護老人保健施設くわの実の郷	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市東区空港西二丁目214番14,15	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	140人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 竣工	評価の実施日	2017年6月23日
敷地面積	6,281 m ²	作成者	武田昌和
建築面積	2,102 m ²	確認日	
延床面積	5,094 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	建物を敷地中央に配置し、周辺道路及び隣地から適切な距離を設け、近隣への圧迫感や建物の日影の影響を軽減するように配慮した。	その他 0
Q1 室内環境	療養室の周囲や居室の防火上主要な間仕切壁は十分な遮音性能を持たせる計画とした。また、開口部も十分な遮音性や断熱性を確保するよう計画した。	Q2 サービス性能 主な居室の天井高さは2.5m以上確保し、快適性の向上に努めた。
LR1 エネルギー	開口部の複層ガラスや外壁等の高断熱化で外部の熱負荷を抑制し、建物の省エネルギー化を図っている。	Q3 室外環境(敷地内) 車寄せには大きな屋根を、アプローチには小さな屋根(雁木)を設け、住宅地に囲まれた周辺環境との調和を図り、「家」や「住宅」を感じさせる計画とした。
	LR2 資源・マテリアル リサイクル材料の採用に努めると共に、有害物質を含まない材料を使用する計画とした。	LR3 敷地外環境 夏季の卓越風に配慮した配置計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される